

「新」若手研究者クロストークを終えて —感想と今後の抱負—



2014.10.17



大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
統計数理研究所
The Institute of Statistical Mathematics

調査科学研究センター
特任研究員 稲垣佑典

こんなお話ご存知ですか？

創作童話

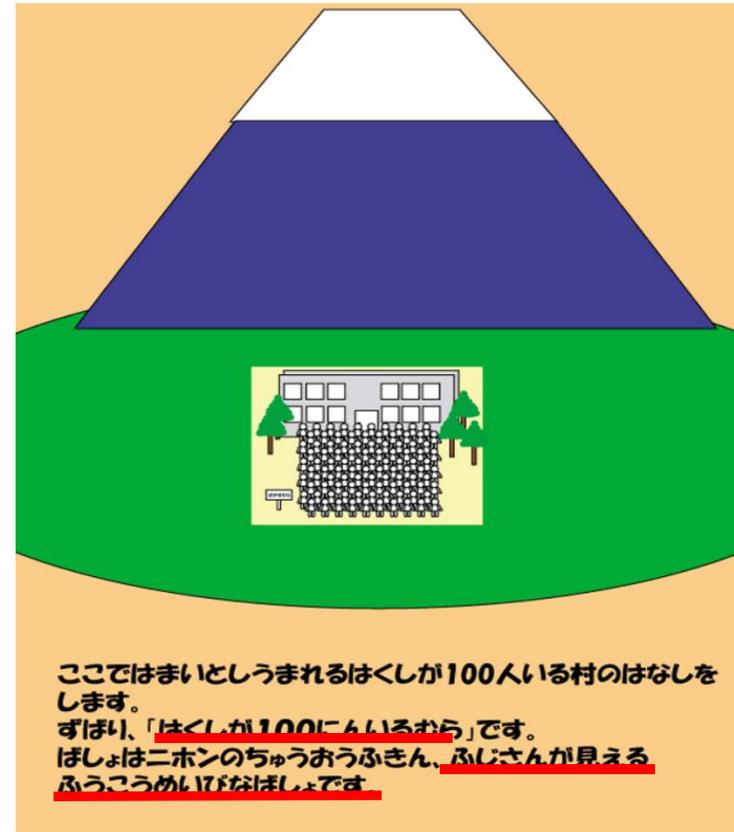
博士(はくし)が
100にんいるむら



不思議な共通点



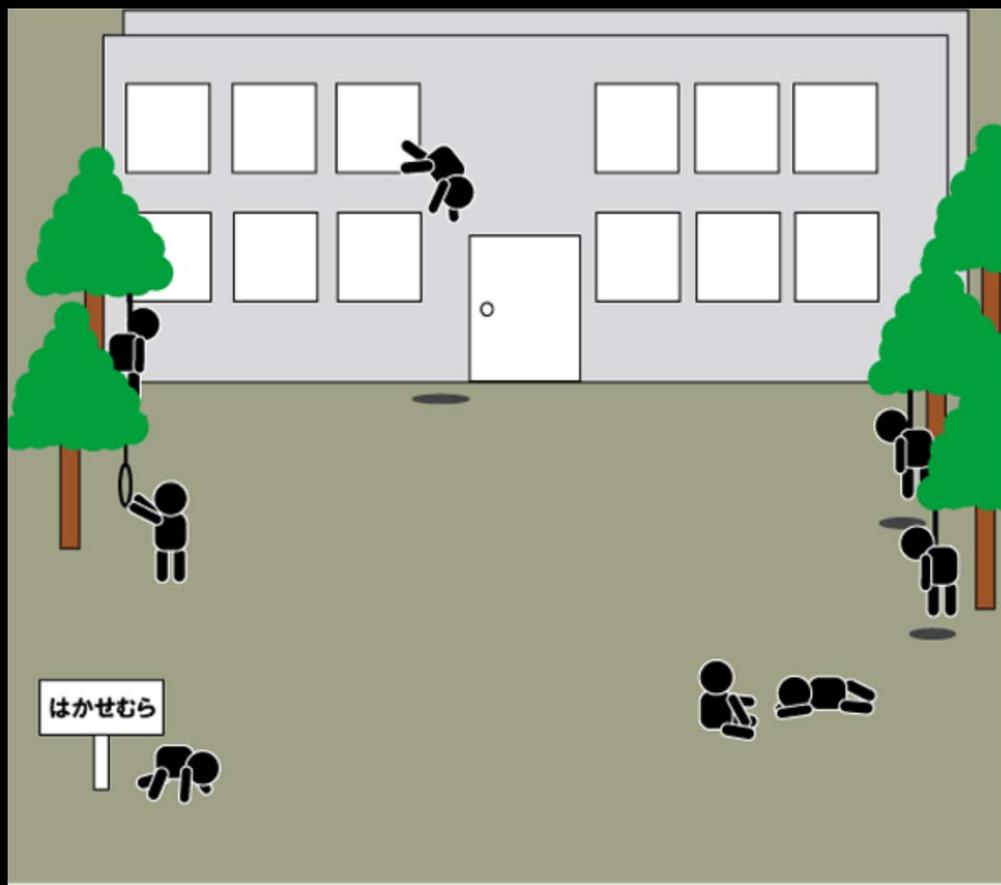
博士(過程)が
41人いる 湘南国際村センター



博士が100人いる村

博士の異常な現状

私は如何にして学問を愛するのをやめて心配するようになったか



100にんのはくしがうまれたら、8人が**ゆくえふめいかしぼう**しています。

はくしをもちながら、あすへのきぼうをうしなったのです。

さようならさようなら。

ぼくたちはきえます。

せけんからきえます。

このつらいよのなかからきえます。

さようならさようなら...

なぜ悩みを抱えてしまうのか？

- 指導者がいなくなる
 - 慣れない環境
 - 仕事としての研究と自分の研究の両立
 - 不安定な地位
 - 相談できる相手が少ない
- etc...



「新」若手研究者クロストーク概要

①「これからの研究の方法論」 丸山 宏 先生

あらゆる分野をつなぐ「データ中心科学」の役割

②「これからの研究の倫理」 片瀬久美子 先生

研究不正が発生する背景の解明・対策



①②を踏まえて

ワールドカフェ形式で討議

研究者間の協力・交流は不可欠！でも、どうすれば？

研究者間の交流や融合研究を可能とする制度の設立に従事することが
評価される仕組みを作ってはどうか？

「新」若手研究者クロストーク概要 (cont.)

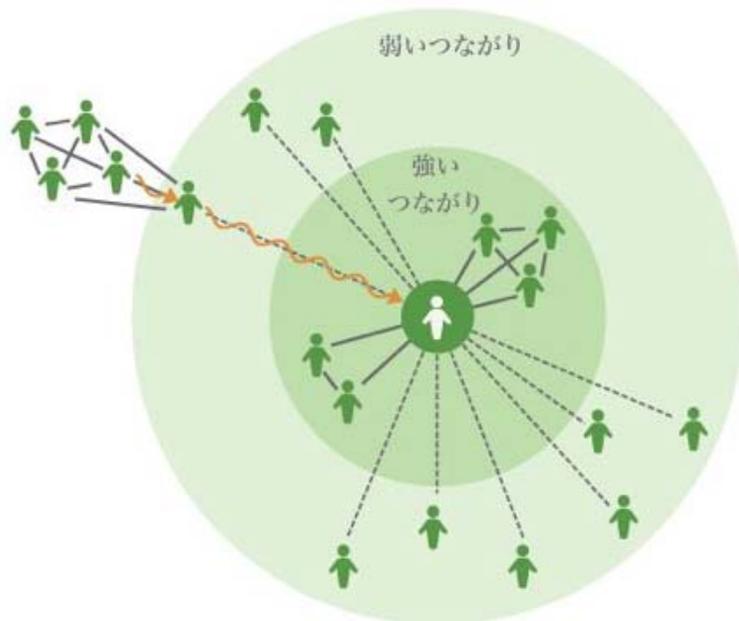
③「融合研究のテーマ発掘とその進め方」 堀田凱樹 先生

40年先を見据えた研究テーマを見つけるべき！

テーマ別分科会

1. 科研費等外部資金獲得に向けたノウハウ
2. とんでも研究テーマの考え方、進め方
3. 年齢に応じた研究(キャリアの積み重ね方)
4. ワーク・ライフ・バランスの悩み、解決法
5. 英語論文の書き方、英語によるプレゼンについて
- (6. 留学先で研究をうまく進めるには)

若手研究者クロストークの意義とは？



- ・顔合わせ
- ・研究紹介・パーソナリティの把握
- ・苦労や悩みを分かち合う

知人・友人関係の構築



- ・共同研究の機会を得る
- ・ポジションの情報を得る

「弱い紐帯の強さ」(Granovetter, 1973)

今後どのようにすべきか

クロストークで提供

外部にあるシステムとシステムの間を調整

適応機能

(Adaptation)

必要な資源・資金の調達

目標達成機能

(Goal-attainment)

目標に向かって指導

条件次元

潜在機能

(Latency)

規範など潜在的なパターンを維持

統合機能

(Integration)

内部の関係を調整

達成次元

システム内部の関係を調整

??? (丸投げ状態)

AGIL図式 (Parsons, 1967)

個人でできること

- 自ら他の研究者に働きかけていく
- 広い視野と心をもって研究を受け入れ、理解し、発展の道を探る
- とにかく自分の研究を頑張る



「日本人の国民性調査」

- ・統計数理研究所主体
- ・1953年に開始
- ・2013年には第13次全国調査を実施
- ・10月末に公式発表予定

調査の概要について

<http://www.ism.ac.jp/kokuminsei/>

調査結果(2008年データまで)

<http://www.ism.ac.jp/kokuminsei/table/index.htm>



鋭意作業中です！